

神戸新聞子育てクラブ
すきっぷって？

すきっぷは、神戸新聞社が兵庫県内の子育て支援団体や大学の専門家と連携して運営する子育てクラブです。これから親になるプレママ・プレパパや未就学児とその親、子育てに関わるすべての人を対象に、地域のきめ細やかな情報を発信するとともに、リアルなコミュニケーションの場を提供し、「もっとつながる子育て」を目指します。



一日パパ・ママ体験!

2017年度

～大学生の子育て家庭訪問～



一日パパ・ママ体験!

～大学生の子育て家庭訪問～

サイトはこちら <http://m-kobe.com/skip/>



2018年2月発行

発行／兵庫県・神戸新聞社

企画・編集／神戸新聞社 地域総研 078-362-7079

本書の内容を許可なく転載、複写、複製することを禁じます。

※この事業は、「地域少子化対策重点推進交付金」を活用しています。

大学生の子育て家庭訪問レポートを掲載

「結婚・子育て」の不安を大学生が徹底リサーチ!



大学生のみなさん 将来の結婚や子育てに、不安を感じていませんか？

兵庫県と神戸新聞子育てクラブすきっぷが連携して、
大学生のみなさんに子育て中のご家庭を訪問し、
育児を体験してもらう活動に取り組んでいます。

体験をとおして、学生のみなさんの「育児ってうまくできるのかなあ？」
「育児ってイメージできない」といった不安や疑問を解消し、
育児を身近に感じてもらうきっかけになればと考えています。

また、体験の感想や意識の変化について、
新聞や冊子、参加学生が発表するフォーラムの開催やサイトなどで発信し、
より多くの学生に知ってもらうことを目指しています。



一日パパ・ママ体験!

～大学生の子育て家庭訪問～

目次

- 大学生の子育て家庭訪問体験について…………… 2・3
- 大学生の子育て家庭訪問体験レポート! …………… 4～9
- 訪問体験後のアンケート結果…………… 10～12
- 「結婚・子育て」の不安を武庫川女子大学の学生が徹底リサーチ! …… 13～18
- この事業を振り返って…………… 19

＊大学生の子育て家庭訪問体験の流れ

マッチング

大学の子育て支援拠点などで、訪問するご家庭を見つけて訪問日を決めてもらいます。
※訪問家庭が見つからない場合、事務局がマッチングを行います。

参加申し込み

専用のWEBフォームから事務局宛てに参加申し込みをします。
※原則2人1組で訪問します。
※訪問日までにプレゼントする活動用品を購入します。

子育て家庭訪問当日

購入した活動用品(おもちゃや絵本)などを使い子どもと遊んでもらいます。
保護者と相談して、抱っこや、食事のお世話などの育児体験を行います。
また、結婚・子育てについての質問をしたり、体験談などをお聞きます。

アンケートに回答

子育て家庭を訪問した後に、WEBアンケートに答えてもらいます。
(体験の感想や子育てに対する意識についてお聞きます。)

体験内容を広く発信

新聞や冊子、フォーラムやサイトなどを通じて体験した内容をより多くの若者に
向けて発信してもらいます。

※上記は一例となり、マッチング方法や流れは、各大学や子育て支援拠点により異なります。



＊「大学生の子育て家庭訪問」事業の運営体制

この事業は、結婚・子育て未来体験連携会議による協議のもと、7大学のご協力をいただきながら取り組んでいます。

【結婚・子育て未来体験連携会議委員】

- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 座長 | 神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 教授 伊藤 篤 |
| 委員 | 甲南大学 文学部 教授・人間科学研究所 所長 北川 恵 |
| | 兵庫教育大学 副学長 名須川 知子 |
| | 阪神電気鉄道 経営企画室 課長 山崎 由貴子 |
| | 一般社団法人Babyガーデン 代表理事 高田 佳代子 |
| | 兵庫県 健康福祉部 少子高齢局長 入江 武信 |
| | 神戸新聞社 地域総研所長 三好 正文 |

【協力大学】

- 甲南大学
- 神戸大学
- 神戸松蔭女子学院大学
- 神戸親和女子大学
- 夙川学院短期大学
- 兵庫教育大学
- 武庫川女子大学




兵庫教育大学
学校教育学部
幼年教育系コース 2年生
高磯 知佳 さん

vol.1





神戸大学
発達科学部
人間形成学科 2年生
南里 健太 さん

vol.2



訪問先では、どのようなことをしましたか？

積み木で遊びました。高く積み上げることができたら、子どもと一緒に手を叩いて喜びました。またプチかくれんぼ(いないいないばあのようなもの)をしたり、一緒におやつを食べたり、持参したおもちゃで遊びました。

実際に子どもと接してみても、どのようなことを感じましたか？

とても楽しかったです。よく来てくださる大学内の子育て支援ルームでも元気な姿を見せてくれますが、やはり家のほうがよく慣れているのもあって、より安心して遊べていたと思うし、感情表現もより豊かだったように思います。やはり、子どもにとって保護者の存在は大きなものであると感じたし、よりたくさんの人に褒めてもらえるほうが本人も嬉しそうでした。子どもがいるだけで家庭内の雰囲気明るくなるな、と思いました。

今回の訪問により、あなたの子育てに対する不安は軽減されましたか？

非常に軽減されました。子どもは予想外のことをすることがよくあるということが分かったので、それが普通なんだ、焦らなくていいんだと気持ちに余裕を持つことが大切で、柔軟に対応するのが良いことだと分かったからです。

今後あなたは、子どもと触れ合う機会を増やしたいと思いますか？

今後子どもと触れ合う機会をもっと増やしたいと思います。私自身が絵本に興味があるので、子どもがどんな絵本に興味を持つのか、どんな絵本を好むのか知りたいし、読み聞かせもしてみたいと思いました。



私が選んだおもちゃ

押してお散歩させるようなアヒルのおもちゃを選びました。よく手押し車やムカデを引っ張って散歩させるようなおもちゃで遊んでいる姿を見ますし、バタバタと足が回るのがおもしろいと思ったからです。やはり押すとバタバタと足が回るのが面白かったようで、何度もおもちゃを押して遊んだり、私たちやご両親に押しってもらって正面から見て楽しんでいました。



子育て家庭からのコメント



お姉さんと遊ぶと、普段そこまで遊ばないおもちゃでも、よく遊んでいたのが印象的でした。なかでも、積み木は、初めて4つ積むことができ、一緒になって楽しみ、褒めることが大切だと実感しました。また、学生から「子ども大好き!楽しい!」ということが伝わってきて、子育て家庭訪問を申し込んで良かったと思いましたし、良い先生になられたと思いました。

訪問先では、どのようなことをしましたか？

まずはじめに、買ってきたおもちゃをあげました。ぬいぐるみをあげる、貰うを何度も繰り返して、他のおもちゃでも何度も同じことをしました。次にペアの人と交代して、お母さんのお話をお聞きしました。育児の大変さや楽しさなどたくさん話して頂きました。最後に、おむつ替えをさせていただきました。お子さんはおむつ替えが嫌いらしく、わんわん泣いてしまいましたが、なんとか替えることができました。

実際に子どもと接してみても、どのようなことを感じましたか？

とても楽しかったです。やはり子どもはお母さんが一番なのだと感じました。どれだけ楽しそうに私たちと遊んでいても、お母さんの姿が見えなくなると、すぐに不安がり、探しに行こうとしました。私自身の力不足も同時に感じました。また、今回私たちは一回きりなので終始かわいという感情でしたが、これが何年も続くとなると、お母さんも大変だと思いました。

今回の訪問により、あなたの子育てに対する不安は軽減されましたか？

やや軽減されました。子どもにとって安全な家具の置き方など、気づけるポイントが多々あったので、少しながらも知識が増えたと思うからです。また、子どもが喜ぶこと嫌がること、好きなこと嫌いなことがなんとなく理解できたので、将来はこの経験を活かして子育てできようと思いました。

今後あなたは、子どもと触れ合う機会を増やしたいと思いますか？

増やしたいと思います。大学を通して幼稚園や保育園でのボランティアを行ったりしたいです。また今回初めて訪ねた、「のびやかスペースあーち」※に定期的に顔を出して行きたいとも思っています。

※「のびやかスペースあーち」とは、神戸大学大学院人間発達環境学研究所の附属施設です。地域子育て支援拠点事業を中心にしながら、共生のまちづくりを目指しています。

私が選んだおもちゃ



犬のぬいぐるみと知育玩具と1mほどの何度も起き上がる空気を入れるおもちゃです。犬のぬいぐるみは気に入ったらしく、持ち運んで遊んでいました。知育玩具は本来の使い方はないものの、遊んでくれていました。1mほどのおもちゃは、空気を入れる音にも興味津々で、持ち運んで遊んでくれていました。



vol.3



神戸松蔭女子学院大学
人間科学部
子ども発達学科 1年生
若林 理奈 さん



訪問先では、どのようなことをしましたか？

買って持って行ったおもちゃや訪問先のご家庭にあったおもちゃで遊んだり絵本を読んだりしました。お子さんがお腹を空かせると、お母さんがお昼ご飯を用意して食べさせるのを手伝いました。お昼ご飯が終わりお子さんがお昼寝している間は、幼稚園の教員だったお母さんと大学生活や幼稚園の教員について話をしました。

実際に子どもと接してみても、どのようなことを感じましたか？

とても楽しかったです。とても感情豊かなよく笑うお子さんでした。とても可愛らしくて愛らしかったです。しかし、まだお母さんから離れることが難しい年頃なため、お家の中でお母さんの姿を確認しながら過ごしていました。

今回の訪問により、あなたの子育てに対する不安は軽減されましたか？

子育ては簡単なものではないので不安がなくなることはないと思います。けれども、それ以上にやっぱり子どもは可愛いし、今日できるようになったことや私の存在を必要としてくれるということはとても嬉しいことだと思いました。

今後あなたは、子どもと触れ合う機会を増やしたいと思いますか？

1人の子どもと接する機会もいですが大人数の子どもと接する機会を増やしたいと思います。もっと子どもが喜ぶ歌や踊りの種類を増やしたいと思います。



私が選んだおもちゃ



お子さんが1歳4ヶ月ということだったので、口に入れても喉に詰まらないサイズのブロックと、動物の名前を英語と絵を使って学べるカードを買いました。5歳まで使える対象年齢が幅広いブロックならば、兄弟ができてでも使えるしそのおもちゃを長い間使えると思い選びました。



vol.4

夙川学院短期大学
児童教育学科 3年生
小石 綾乃 さん



訪問先では、どのようなことをしましたか？

まず、事前におもちゃを選んで用意していたため、そのおもちゃを子どもたちにプレゼントしました。そして、そのおもちゃで遊びました。1つはプリキュアのおもちゃだったため、プリキュアごっこのように、どうやって変身するの?などと会話をしながら遊びました。もう1つはアンパンマンの音の出るおもちゃだったため、一緒に遊び方を確認したり、音を鳴らして遊びました。また、絵本を読んだり折り紙をしたりもしました。そして、おやつを用意してくれていたため、一緒におやつも食べました。

実際に子どもと接してみても、どのようなことを感じましたか？

とても楽しかったです。実際に子どもたちと関わってみても、可愛いなと思いました。はじめは、仲良くできるのか、一緒に遊んでくれるのかという、緊張と不安がありました。しかし、勇気を出して喋りかけることで、ニコニコ楽しそうに遊んでくれました。そして、「絵本読もう」「折り紙したい」と自分から話しかけてきてくれたことがとても嬉しく、すごく可愛いなと思いました。

今回の訪問により、あなたの子育てに対する不安は軽減されましたか？

非常に軽減されました。体験させていただいた家庭では3歳の長女と8カ月の次女がいました。その中で、長女が次女にいたずらをするとお母さんが悩んでおられました。しかし、そんな悩みの中にも、この子はオムツが早く取れたからと楽しそうにお話するお母さんの姿もありました。そのため、子育ては大変なことも多いが、それがやりがいであり、楽しいこともたくさんあるんだと、子育てに対しての不安は軽減しました。

今後あなたは、子どもと触れ合う機会を増やしたいと思いますか？

今回の体験で、これからも子どもたちと触れ合いたいと思うようになりました。子どもたちと遊ぶのは非常に楽しく、なぜか癒されました。そのため、これからもたくさん子どもたちと触れ合いたいなと思いました。そして、今回は2時間の体験でしたが、楽しかったためかすぐに時間が過ぎました。今度はもう少し長い時間一緒に触れ合いたいなと思いました。

私が選んだおもちゃ



おもちゃは、プリキュアのおもちゃとアンパンマンの音の出るおもちゃ、そして絵本を持参しました。できるだけ子どもが喜んでくれるように、事前にどんなキャラクターが好きか、どんなものが好きか聞いておき、その情報にそっておもちゃ選びをしました。また、子どもが2人だったため、喧嘩にならないよう平等に1つずつ2人で読める絵本にしました。プリキュアのおもちゃは特に、ほしかったおもちゃだったようでとても喜んでくれたと思います。

子育て家庭からのコメント



いつもみんなで楽しくわいわいと過ごせてまるで幼稚園状態でした。半年間で、下の娘はねんねの状態からおすわり、そして最終日にはつかまり立ちができるようになり、成長と一緒に見ていただけことが嬉しかったです。あやのさんとぞみさん*の二人から、手作り写真ボードをいただきました。玄関に飾っていて、見るたびに上の子は、遊んでもらったことを嬉しそうに思い出しています。一回や二回じゃなく、半年間、来ていただけたことがとてもよかったです。

*小石さんと一緒に訪問した、夙川学院短期大学児童教育学科3年生の元木 希さんです。

*小石綾乃さんは複数回、同じ子育て家庭を訪問しました。



甲南大学大学院
人文科学研究科 1年生
西川 友貴 さん

vol.5



訪問先では、どのようなことをしましたか？

お母様とお子様達が近くまで、迎えに来てくださったので、お会いした時に簡単に自己紹介をしました。家に到着して、リビングでみんなが集合してから、買ってきたおもちゃを並べて、何で遊ぶか提案しました。お姉ちゃんはビーズでネックレスをお父さんや妹さんに作ってあげていました。妹さんは恥ずかしそうに、お父さんやお母さんの膝の上で立体パズルで遊びながら、時折お姉ちゃん遊びにも興味を示し、一緒に遊びました。最後の方は打ち解けて、全体的に遊べました。

実際に子どもと接してみても、どのようなことを感じましたか？

とても楽しかったです。単純に子どもが可愛いと思いました。今回のご家庭が、二人姉妹だったので、姉妹それぞれに全く異なる性格があるのだなと思いました。一方で影響し合うところもあることに気づきました。子育てをする時は一人一人の性格に合わせて叱ったり、褒めたりすることが必要だと気付きました。遊んでいる途中で、お母様が電池の入った瓶が割れてしまい、それを捨てるようとする場面があり、子どもはそれを気に入りのおもちゃとして遊んでいたのが、捨てられると思い、泣きそうになっていました。おもちゃ一つ捨てるのが子どもにとっては悲しいことで、大事に使ってたんだと思いました。大人にとっては大したものではなくても、子どもにとっては違うんだと気付きました。

今回の訪問により、あなたの子育てに対する不安は軽減されましたか？

仕事をしながら、子育てをされているお母様でしたので、実際に両立することは可能なのか、何が大変なのかを聞くことができて、具体的なイメージを持ってました。母親にも一人の時間は必要で、保育園に預けている時にホッとできたという話は何でも一人で抱え込むと負担で生活が窮屈になってしまうのかと思い、自分が親になった時も少しくらい一人の時間を作ってもいいのかなと楽になりました。地域の子育て支援を利用して、ママ友などの横のつながりを持つことの大切さも教えて頂きました。

今後あなたは、子どもと触れ合う機会を増やしたいと思いますか？

増やしたいと思います。もっと時間を長くして、一日体験してみたいと思いました。家事の様子や生活に密着した子育ての様子も見たいなと思いました。

私が選んだおもちゃ



立体パズル、ビーズ、キラキラリボン、ティアラ、おままごとセットを持参しました。対象年齢を考慮しながら、お母様に事前に頂いた情報を基に選びました。パズル、キラキラ、可愛い、おままごとのキーワードでみんなで遊べそうなおもちゃや、喧嘩にならないように数にも気をつけました。キラキラリボンが一番ひきつけられていたようにおもいます。リボンを動かすたびにキラキラ光るので、棒を巧みに回しながら、遊んでいました。姉妹に一本ずつ買ったので、取り合うこともなく、自分用にお父さんに印をつけてもらっていました。おままごとは、元々お家にあったキッチンセットや何かの果実も合わせて遊んでいました。立体パズルは妹さんが最初遊んでいて、うまく入らない時は諦めようとしていましたが、お母さんがもうちょっと頑張ってみようよと声をかけるともう一度粘り強く当てはまるころにはめようとしていました。ティアラはお姉ちゃんが最初頭に乗けて、お母さんやお父さんから可愛いと褒められて嬉しそうでした。



子育て家庭からのコメント

お姉さんが選んでくれたおもちゃで遊ぶ我が子は、親が見たことのない一面を見せてくれ、私たちにとって有意義な時間でした。また、学生さんたちが、子育てに対して少しでもプラスのイメージを持ってくださったなら光栄です。今後もこのような活動が継続されることを願っています。



兵庫県立大学
経済学部
国際経済学科 3年生
鹿野 冴佳 さん

vol.6



訪問先では、どのようなことをしましたか？

まず、持参したおもちゃを渡してそれで遊びました。それから動物パズルや、絵本、車のおもちゃ、ボールをバスケットゴールに入れるなどの遊びをしました。そして、おやつと一緒に食べながら、お母さんからいろいろとお話を聞きました。

実際に子どもと接してみても、どのようなことを感じましたか？

とても楽しかったです。とにかく子どもがかわいいと感じました。会ったときからずっと笑顔でいてくれました。また、パズルをはめたり、ボールをバスケットゴールに入れたり、一つ一つの動作のあとに自分で拍手をしてくれそうにする姿が印象的でした。

今回の訪問により、あなたの子育てに対する不安は軽減されましたか？

やや軽減されました。お母さん自身がひとりっ子だったこと、また、旦那さんがお休みが不規則な仕事をしていらっしゃるということで、里帰りをした後、本当に1人で育児をしながら家事もできるのか不安だったそうです。でもいざやってみるとなんとかなったと聞いて不安が軽くなりました。

今後あなたは、子どもと触れ合う機会を増やしたいと思いますか？

子どもと触れ合う機会はずいぶん増やしたいと思います。今回は家の中での体験でしたが、公園など外でも一緒に遊んでみたいです。またいろいろなお母さんから育児のお話を聞いてみたいと思いました。

私が選んだおもちゃ

マグフォーマーという三角と四角の形をした磁石のおもちゃを持参しました。事前にこのおもちゃがいいと聞いていました。もう少し大きくなったら図形をつくって遊べるようになるそうです。くっつけて遊んだり、私やお母さんの目に磁石をもっていった眼鏡のようにするのが楽しそうでした。





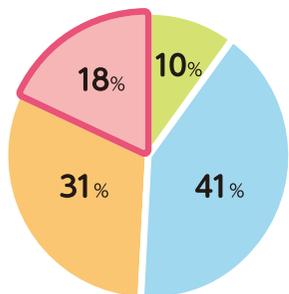
体験活動に参加した学生に体験の感想や
体験前後での意識の変化について
アンケートを実施しました。



- 実施概要** 対象者 子育て家庭訪問体験事業 参加大学生
- 調査方法** 各学生が子育て家庭訪問体験をした直後にWEBアンケートで実施
- 実施期間** 2017年7月30日～2018年1月31日
- 回答数** 51件(男性3名、女性48名)

体験前

1 普段、3歳以下の子どもと接する機会が「よくある」と答えたのは **18%**

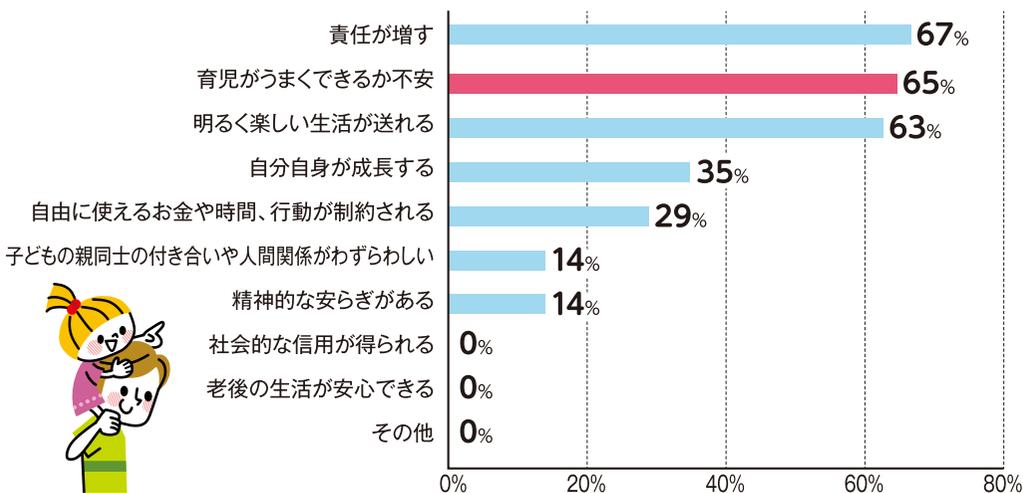


Q.あなたは、普段、3歳以下の子どもと接する機会がどの程度ありますか？

- 接する機会がまったくない
- 何度か接したことがあるが、普段はあまりない
- 接する機会は時々ある
- 接する機会がよくある

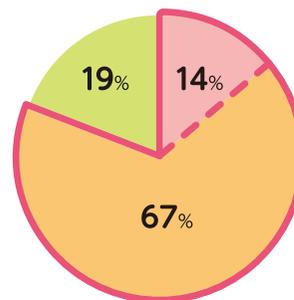
2 参加学生の **65%** が、活動に参加する前「育児がうまくできるか不安」と回答

Q.今回の体験以前に、「子育て」について、あなたはどのようなイメージを持っていましたか？
あてはまるものを【3つまで】選んでください。



体験後

3 参加後に育児に対する不安が「軽減された」と **81%** が回答



Q.今回の訪問により、あなたの子育てに対する不安は軽減されましたか？

- 非常に軽減された
- やや軽減された
- あまり軽減されなかった
- まったく軽減されなかった

■軽減された理由

- 「お母さんが楽しそうに子どもと接していたからです。日に日に成長していくのが、嬉しくて可愛くしょうがないとおっしゃっていたので、子育ても大変なだけでなく楽しさも感じられるのだと思った。」
- 「お母さん・お父さん両方から、子育て家庭のリアルな姿や悩み、喜びなどを教えていただき、将来子どもが家にいる生活というものが自分の中で少しリアルになった。」
- 「1人で育児をしながら家事もできるのか不安だったが、いざやってみるとなんとかなったというお母さんのお話を聞いて不安が軽くなった。」
- 「訪問先のお母さんは働きながらも育児をしっかりとしてされており、仕事と育児の両立の具体的なイメージが持て、とても勇気づけられた。」
- 「母親にも一人の時間は必要で、保育園に預けてる時にホッとできたという話を聞き、育児中でも少しくらい一人の時間を作ってもいいのかなと楽になった。」
- 「保護者の方は児童館や子育て支援センターなどをうまく活用して、育児の不安を解消し子育てを楽しんでいる様子でした。自分だけで考え込まずに周りの人からもアドバイスをもらって自分に合った子育てをすれば、不安も解消されていくのかと感じました。」
- 「考え方ひとつで子育ての捉え方が変わったと思った。子どもは予想外のことをすることがよくあるので、焦らず気持ちに余裕を持って柔軟に対応すればいいと分かった。」

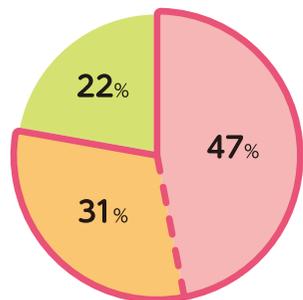


■軽減されなかった理由

- 「子どもと遊ぶこと自体はとっても楽しいと思ったが、世話をするとかなり大変なことも多そうだったから。」
- 「子ども1人なら育てることができるとは思えないが、2人以上は不安である。特に、男の子の兄弟は大変そうだった。」
- 「喧嘩をしたり、いつ何が起るかわからないので、家の中でも目を離している時間がなさそうで不安になった。」



4 参加後に結婚に対するイメージが「良くなった」と78%が回答



Q.今回の訪問後に、結婚に対するイメージは変わりましたか？

- よくなった
- どちらかといえばよくなった
- 変わらない
- どちらかといえば悪くなった
- 悪くなった

まとめ

普段3歳以下の子どもと接する機会が「よくある」と回答した学生は18%にとどまり、少子化・核家族化の影響があると考えられます。また、体験前には学生の65%が「育児に不安がある」と回答していました。体験後に「不安が軽減した」学生は81%、結婚に対するイメージが「良くなった」と回答した学生は78%にのぼり、結婚・子育てに対するイメージの向上が見られました。体験で子どもと関わるのが「楽しかった」と98%が回答。参加学生全員が、今後子どもと触れ合う機会を増やしたいと回答しています。

アンケート結果の詳細についてはサイトをご覧ください

■そのほか学生の意見

- 子どもが無条件で可愛くて、幸せで楽しい時間を過ごせた。
- 子どもの笑顔を見ると自分も自然に笑顔になった。
- 最初は人見知りをしていましたが、慣れてくると声を出したり笑いかけてくれるのがうれしかった。
- 普段小さな子どもと触れ合う機会がないのでとても貴重な経験だった。
- 学生が普段接することのあまりない子育てで世代と交流する場を設けることが必要だと思う。
- もっと長時間の子育て家庭訪問体験がしたい。
- ボランティアや大学の子育て支援拠点を通して子どもと触れ合う機会を増やしたい。



阪神電車と武庫川女子大学が共同でお届けする特集企画
「結婚・子育て」の不安を
武庫川女子大学の学生が徹底リサーチ!

阪神電車では、沿線にお住まいの女性を応援するHANSHIN女性応援プロジェクトを展開するとともに、武庫川女子大学と共同で、親子で楽しむ阪神沿線公園ガイド「KID'S SMILE」を制作しています。このたび、「結婚・子育て」に不安を抱える大学生を代表して特別企画を実施!学生が抱える「不安・本音」を現役ママにぶつけてみました!

ちなみに…
親子で楽しむ阪神沿線公園ガイド「KID'S SMILE」とは?

阪神沿線に暮らす子育て中のご家族に向けて発信する子育て支援情報誌。武庫川女子大学の教育学科で学ぶ学生が子育て目線で取材した公園・施設、子育てに役立つコラムなど、パパ・ママにうれしい情報が満載です。



HANSHIN 女性応援WEB
[暮らす][遊ぶ・楽しむ][はたらく][知る・学ぶ]

Cheer*full Cafe
チアフルカフェ

HANSHIN女性応援WEB「チアフルカフェ」では女性に役立つ情報を掲載中!

「KID'S SMILE」をはじめ、800を超える沿線の公園のデータベースやお役立つ情報満載のコラム、沿線にお住まいの女性が取材、ライティングを担当する「チアフルライター通信」など、女性の暮らしにうれしい情報を数多く掲載!

詳しくはこちら



チアフルカフェ 検索
https://hanshin-woman.com/

女子大生の Real Voice!

大学を卒業して、就職して、
その先の自分はどうしているんだろう?
結婚はしたいし、子どももほしいと思うけれど、
正直なところ結婚生活や子育てについて
まったく実感がわからない…。
何が不安で消極的になってしまうのか、
学生たちがホンネで話し合いました。



ズバリ! 結婚・子育ての何が不安?

テレビで見るような嫁姑問題とか、ママ友との関係とか。
人間関係が大変そう…。

「結婚相手の家族と同居することになったらどうしよう?」「料理の好みや
考え方が合わない時は?」など、新しい家族と仲良くできるのかというこ
とに不安を感じる学生が多数。また「公園デビュー」やママ友とのSNSト
ラブルなど、時代を反映した悩みも。

結婚後も仕事は続けるべき?
家事や育児と両立できるの?

経済的な不安と密接に結びついているのが、家事・育児をこなしながらの
就労問題。「仕事と家事の両立が大変そう」「産休・育休はちゃんととれ
る?」「子育てしながらフルタイムで働ける?」など、不安が山積みです。



家事や育児を夫婦で
分担できるのかが不安…。

結婚後、家事や育児の大部分を担当することになるであろう女性ならで
はの悩みが噴出。「掃除や料理が苦手でも大丈夫?」「自分の時間がなくな
ってしまう…」「結婚相手とどうやって分担を決めればいいのか?」と
いった声も聞かれました。

結婚や子育てにどのくらいお金がかかるの?
趣味や買い物に自由に使えるお金はある?

学生が一番気になっていたのは現実的な「お金」の問題!「出産にかかる
費用って?」「子どもの学費や習い事代をちゃんと用意できるかな…」と
いった一家の経済力に関する不安のほか、「自由に使えるお金がなくな
りそう」など、夫婦のお財布事情も気になるようです。

育児ってどのくらい大変なの?
困った時、誰に相談すればいいんだろう…。

少子化で親戚や近所の子どもとふれあう機会も少なくなった昨今、ほと
んどの学生は「赤ちゃん・子どものことがまったく分からない」状態
です。突然の病気や反抗期など、いざという時、誰に相談すればよいか分
からないということにも不安を膨らませているようです。

たくさんの不安を吹き飛ばすほどの
結婚や子育ての魅力って?!

結婚や子育てについて話し合うほど不安は募るばかり。それでも「結婚
してよかった」「子どもを育ててよかった」と思える魅力って何だろう…。
未体験ゆえ、結婚生活や子育ての喜びや楽しさも漠然としか実感でき
ず、不安を拭えないのかもしれない。

分からないことは聞いてみよう!

学生たちの座談会で明らかになったのは、結婚や子育てについて「よく分からない」「体験したことがな
い」からこそ不安を感じているということ。そこで、特に気になる「お金のこと」「人間関係」「家事・育児
の現状」について、現役ママたちのリアルなお話を聞かせてもらうことに。果たして学生たちの不安は
解消されるのでしょうか。

子育てサークルのママたちと Real Talk!

「結婚・子育て」の不安を武庫川女子大学の学生が徹底リサーチ!

現役ママたちと座談会を実施し、結婚・子育てについて学生たちが感じている不安を突撃取材!
リアルなお金の話や子育ての大変さから、幸せを感じる瞬間まで、
ホンネで語ってくれました。

Part 1.

お金について聞きたい!

■出産にはどのくらいお金がかかるんですか?

分娩法や入院する病院・部屋のタイプによっても変わりますが、私の場合は40万円くらいでした。健康保険に加入していれば、「出産育児一時金※1」が支給されるので、よっぽど贅沢な部屋やサービスを選ばなければ、大きな支出ではないと思いますよ。出産前にも検診などで多少お金がかかりますが5万円くらいだったと思います。

■子どもの養育費はどうしていますか?

今通っている習い事の費用などは、毎月支給される「児童手当※2」を活用しています。将来、子どもが高校や大学に進学する際の資金に関しては、必要に応じて「学資保険※3」への加入も検討しようと思っています。

■結婚前に金銭的な不安はありませんでしたか?

今はみなさん学生で、働いてもないし貯金も多くないでしょうから、お金の不安が大きいんでしょうね。若い時は憧れや理想も高いでしょう。でも実際に結婚する、子どもを産むとなる頃には、自分にも相手にもある程度の収入や蓄えがあるし、身の丈に合った暮らしができるようになっていくので、心配しなくても大丈夫ですよ。

■家族の財布は一緒?別々??

●結婚した時にそれぞれの貯金を出し合い、家族の口座をつくりました。以来、家族の財布は一つです。その中で住居費や食費などの必要経費をまかない、残れば私のおこづかいとして使っています。夫のおこづかいについては、仕事上どうしても必要な出費があると思うので「月いくら」という具体的な金額は決めていません。

●うちはお金の管理は夫にまかせています。私は生活費として必要な金額をもらって、そのなかでやりくりをしています。子どもが生まれるまでは私も働いていたので、その分は自由に使ったり貯金に回したりしていましたよ。

●反対にうちは私が管理しています。夫は何にどれだけお金がかかっているか、まったく知らないと思います。

※1 出産した場合に1児につき42万円が支給される制度。
※2 児童を育てる保護者に対して支給される手当で、中学校修了までの児童1人につき、月額1万円~1万5000円が支給される。自治体によって支給条件や支給額は異なる。
※3 毎月の保険料を支払い続けることで計画的に教育資金を作れる保険。

(ご協力いただいたサークル)
それいけ!わかば
●親子のふれあいを深め、仲間との交流を
● 図ることを目的に結成。主に西宮市子育て
● て総合センターなどで活動しています。



Part 2.

人間関係について聞きたい!

■義理のご家族との関係は良好ですか?

- お義母さんも「嫁の立場」を経験されているので、私以上にお義母さんの方が気を使ってくれて、とても仲良くしてもらっています。
- 私は出産の時も夫の実家にお世話になったので、お義母さんとは本当に何でも言い合える仲です。お義姉さんとも10歳以上離れているので、本当の妹のように色々なことを教えてもらっています。
- うちはお義父さんと同居しています。同居の場合に円滑な関係を築けるかどうかは、心の持ち方次第だと思います。お義母さんが家事や子育てを手伝ってくれるのを「ありがたい」と思うか、「自分がやりたかったのに」と思うかで、まったく関係性が変わりますよね。同居のメリットをいかにポジティブに捉えられるかだと思います。
- 同じ日本人とはいえ、まったく違う環境・文化で生きてきたので、価値観や生活習慣の違いは多かれ少なかれ出てきます。その際、自分の意見ばかりを主張するのではなく、お互い歩み寄ったり、相手を受け入れたりする寛容さが大切です。

■ママ友って必要ですか?

- 最初はママ友なんて必要ないと思っていました。テレビなどで見る限り、ややこしそうでしたし、子どもと2人きりであることも苦ではなかったです…。でも公園や児童館でたまたま居合わせたお母さんと話すうちに、悩みや不安を共有できる存在がいるのはありがたいと思うようになりました。それまでは相談する相手が家族しかいなかったもので、もっと外の世界とかかわるべきだとも思いました。
- ある時、子どもを連れて子育て支援センター※4を訪れた際に、同世代の子どもたちと遊ぶ顔がものすごく楽しそうで。子どものためにと外出しはじめると、自然にママ友も増えていきました。悩みを相談できるのはもちろん、1人だったら行かないようなところに誘ってもらって出かけるなど、行動範囲も広がりました。

※4 地域全体で子育てを支援するため、自治体が設置する施設。育児の不安に関する相談や、子育てサークルのサポートなどを行う。



Part 3.

家事・育児について聞きたい！

■家事は分担していますか？

- 最近では夫の仕事が忙しいので、ほとんど私が担当していますが、出産直後などは協力してくれました。余裕のある時は一緒にやるというスタンスですね。
- 私は掃除が苦手なので、夫と一緒にやっています(笑)
- 最近、私の手荒れがひどいので、基本的に洗いや拭きは毎日夫がしてくれています。
- ルールを決めるのではなく、お互いの状況に応じて協力するというぐらいがちょうどよいのかもしれないですね。

■自分の時間は取れますか？

- 子どもが生まれてから、1人で出かけることはほとんどありません。たまにゆっくり買い物に行きたいなと思うこともありますが、行けないことがストレスになるほどではないですね。子どもはすぐに大きくなって離れていくものなので、今は子どもとの時間を大切にしたいです。時間が経てば、また自分の時間は取れるようになると思うので。
- 実家が近ければ預かってもらったり、一時預かりの託児所などを利用したりして、お母さんがリフレッシュすることも大事かもしれませんね。

■出産後、仕事を続ける環境は整っていますか？

最近では産休・育休制度のほか、復職後に「時短制度^{※5}」を活用して働き続けているママも多いです。休日にまとめて家事をこなさなければならぬなど、自分の時間は少なくなるかもしれませんが、子どもがある程度大きくなるまでのこと。仕事を続けられる環境にはなっていると嬉しいです。

■子育ての知識や情報はどこから得ましたか？

乳幼児健診の時に、困っていることや不安なことをまとめて相談していました。また、最近は24時間対応の子育て電話相談サービスもあるので、急なトラブルなどで困った時は、遠慮せずに相談するようにしています。

※5 3歳未満の子どもを育てている人は、原則として1日6時間の「短時間勤務制度」を利用できます。

Part 4.

結婚・子育ての魅力について聞きたい！

■どんな時に幸せを感じますか？

- 家族3人での時です。夫と子どもが楽しそうに遊んでいる笑顔を見ると、結婚して子どもを持つてよかったなあと感じます。
- 自分の子どもって本当にかわいいんですよね。それを知ることができただけでも、子どもがいてよかったと思います。
- 子育てって本当に毎日が未知との遭遇なんです。分からないことばかりだし、うまくいかないことの方が多いのですが、これまでの人生でこれほど自分を必要としてくれる存在がいたかどうかと考えると、頑張らなきゃって思えます。可愛い寝顔を見るたびに「今日も元気でいてくれてありがとう」と感謝しています。



座談会を終えて

- 「今は学生で金銭的に安定していないから不安になる」というお話を聞いて、とても納得できました。働きはじめて生活が安定すれば、不安も解消されそうです。
- 出産時の一時金や育児中の手当もあることを知って安心しました。
- 夫婦間のお財布問題や家事の分担も、家庭ごとに無理のない形が自然と決まってくんだなあと感じました。あまり難しく考える必要はないのかも。
- ママ友や義理の家族との関係性においても、想像していたようなトラブルは実際にはほとんどないと知りホッとしました。少しの思いやりはどんな関係性においても大事ですよ。
- みなさんのお話を聞いて、育児や家事の大変さも、子どもや家族の存在を支えに乗り越えていけると感じました。

※制度等の情報は2018年2月時点のものです。

結婚・子育て未来体験連携会議 座長
【神戸大学大学院 人間発達環境学研究所 教授】
伊藤 篤



国が2004年に策定した少子化社会対策大綱には、「乳幼児とふれあう機会の充実を図る」「生命の大切さ、家庭の役割等についての理解を進める」「安心して子どもを産み、育てることができる社会の形成についての理解を進める」が重点課題3(具体的な行動目標)として掲げられています。これは、現代の子どもや青年が、その成長過程において出産や育児に関する理解を深める実体験が不足していることの表れです。

こうした背景から、例えば、神戸市内のほとんどの中学校では、家庭科の時間を利用して乳幼児とのふれあい体験が実施されています。一方、出産・育児期に近い大学生が乳幼児とふれあったり、体験を通して子育て家庭の役割やそれを支える社会のあり方を学んだりする機会—幼稚園教諭・保育士等の養成校の学生は、乳幼児とふれあう機会はありますが—が多いとは言えません。

そうした意味で、この“大学生の子育て家庭訪問体験事業(一日パパ・ママ体験)”は社会的に大きな意義を持っていると考えられます。冊子内で紹介されているアンケート結果からもうかがえるように、子育て家庭を訪問した学生たちの育児に対する不安が軽減されたり、結婚に対するイメージが良くなったりしています。また、訪問先での観察や対話を通して、親であることの大変さと喜びを実感し、子どもの成長する姿に感銘を受け、子どもに働きかけることの難しさや喜び・手ごたえを得ています。

今後、この事業がきっかけとなって、大学生が1回きりではなく継続的に複数回にわたって子育て家庭の親子と豊かに交流できる仕組みが、県内の多くの地域に広がっていくことを期待します。

結婚・子育て未来体験連携会議 委員
【兵庫教育大学 副学長】
名須川 知子



現在わが国では少子化が叫ばれて久しくなり、子どもの数が減少し続けています。幼い子どもや養育する大人の姿が日常的に見えにくくなっています。その結果、どのように子どもに関わっていいのかわからない、あるいは、子育ての楽しさはあるのかわからない、といった疑問が、若い世代に蔓延しています。

今回、大学生が子育て中のご家庭を訪問して、子どもと遊んだり、直接母親から話を聞いたり、という体験活動は、アンケート結果からもわかるように、子育ての不安をぬぐってくれました。はじめは子育てが不安だと思っていた人の約8割が、「子育ては大変かもしれないけれど、楽しそう」という感想をもったという結果は素晴らしいものだと思います。また、結婚へのイメージもよくなった人が78%になりました。その多くは子どもの可愛らしさと楽しそうに育児をされている母親のお話や姿から、率直に感じられたものでした。

人生の中で与えられている「幸せ」としての多くの部分が、成長を喜べる子育てにあります。そのことを実感できた貴重なものだと思います。

アンケートの感想にもありましたが、もっと多くの若者が体験するために、大学や自治体の子育て支援ルームにボランティアとして足を運んでみて下さい。そして、「すきっぷ」の事業にも積極的に参加して下さい。親子が与えてくれる宝物が人生の指針となることでしょう。